

# 霧の抵抗

## RESISTANCE OF FOG

中谷芙二子  
FUJIKO NAKAYA

2018年10月27日(土) — 2019年1月20日(日)  
SATURDAY, OCTOBER 27, 2018 — SUNDAY, JANUARY 20, 2019

水戸芸術館現代美術ギャラリー、広場  
CONTEMPORARY ART GALLERY, PLAZA, ART TOWER MITO

開館時間 | 9:30 - 18:00 (入場時間は17:30まで)  
OPEN HOURS | 9:30 - 18:00 (ADMITTANCE UNTIL 17:30)

休館日 | 月曜日、年末年始(2018年12月27日(木) - 2019年1月3日(木))  
CLOSED DAYS | MONDAY, PUBLIC HOLIDAYS (2018 DEC 27 - 2019 JAN 3)

12月25日(火)、1月15日(火) ※ただし、12月24日(月・祝)、1月14日(月・祝)は開館  
DEC 25 AND NEW YEAR HOLIDAYS (EXCEPT DEC 24 AND JAN 14)

入場料 | 一般2900円、前売・団体(20名以上)700円  
TICKET | ADVANCE TICKET AND GROUP OF MORE THAN 20 PEOPLE

高校生以下・70歳以上・障害者手帳をお持ちの方と付き添いの方1名は無料  
THE DISABLED AND ONE ACCOMPANYING ATTENDANT

※一年間有効フリーパス「年間パス」12,000円  
ONE YEAR PASS 12,000

主催 | 公益財団法人水戸市芸術振興財団、読売新聞社、美術館連絡協議会  
THE JAPAN ASSOCIATION OF ART MUSEUMS

助成 | 芸術文化振興基金 尚  
GRANT | JAPAN ARTS FUND

協賛 | ライオン、大日本印刷、相保ジャパン日本興亜、株式会社あかつき本社  
SPONSORED BY | LION, DAI NIPPON PRINTING, AIHARA JAPAN NIPPON KONGYO INC., AKATSUKI CO. LTD.

WE / produced by POLA、医療法人真成会たきもとクリニック  
PRODUCED BY POLA, TAKIMOTO CLINICAL

協力 | アサヒグループホールディングス株式会社、株式会社プロセスアート  
COOPERATION | ASAHI GROUP HOLDINGS CO. LTD., PROCES ART

企画 | 山崎潤也(水戸芸術館現代美術センター学芸員)  
CONCEPTED BY | JUNYA

お問い合わせ | 水戸芸術館現代美術センター  
CONTACT | ART TOWER MITO

〒310-0063 茨城県水戸市五軒町1-6-8

Tel. 029-227-8120

<https://arttowermito.or.jp/>

## 【概要】

いま、切実に問われているのは、人間と自然との間の信頼関係ではないかと思う。私たち都会人は、ペットボトルの水しか信用しなくなってしまった。水道の水は臭くて飲めない。川や海は汚染されているからプールで泳ぐ。そこまで自然を信用できなくなったら、もうバーチャルな世界で泳ぐしかない。宇宙へ行った人たちはみな等し並みに、地球を愛しく思う気持ちの高揚を語る。しかし、宇宙服に身を固めて異常空間へと飛翔しなくても、日常の自然の中で、しかもナマ身でその気持ちを体験できたなら、その方がはるかにスマートでエコロジカルに違いない。

「応答する風景 霧の彫刻」中谷芙二子（霧の彫刻家）

中谷のこの言葉には、人工物に囲われた都市空間、メディアを通して得られる疑似体験など、近代以降の技術発達がつくり出してきた社会に対する鋭い批評が込められている。中谷は、雪の研究と自然を題材とした随筆で知られる中谷宇吉郎の娘として生まれ、70年の大阪万博ペプシ館では芸術家と科学者の協働をすすめた「E.A.T.（芸術と技術の実験）」に加わり代表作となる霧の彫刻を制作した。アート & テクノロジー、芸術と科学の融合など、今、流行語のように広がるこれらの世界を、中谷は半世紀に亘って当事者として見つめてきた。こうした活動には、中谷自身の言葉に現れるような柔らかく明快な抵抗が込められている。それを本展では、「霧の抵抗」と呼ぶこととした。霧の彫刻とビデオを通して、時代の潮流に対して霧のごとく抵抗してきた中谷の活動のドキュメントを、当時の時代精神とともに紹介する。

\*引用文は「建築雑誌」Vol. 111, 1996年5月号に初出。

## 【作家略歴】



Photo:©Laura Miglone

### 中谷芙二子（なかやふじこ）

1933年生まれ。“霧のアーティスト”として世界に知られる。米ノースウェスタン大学美術科を卒業後、初期の絵画制作を経て、芸術と技術の協働を推進する実験グループ「E.A.T.」に参加。「E.A.T.」の活動の一環として1970年の大阪万博ペプシ館で、初めての人工霧による「霧の彫刻」を発表。純粋な水霧を用いた環境彫刻、インスタレーション、パフォーマンスなど、世界各地で制作した80を超える霧作品群は、人と自然を取り結ぶメディアである。環境への関心は、雪の結晶を世界で初めて人工的に作った実験物理学者の父、中谷宇吉郎（1900-1962）の影響が大きい。また1970年代から社会を鋭く見つめるビデオ作品の制作や、海外作家との交流を推進するとともに、日本の若手ビデオ作家の発掘と支援に尽力した。2017年にはロンドンのテート・モダン新館など7つの霧の新作を手がけ、2018年、第30回高松宮殿下記念世界文化賞彫刻部門の受賞が決定、夏にはボストンのエメラルドネックレス公園で5つの霧作品を発表。

## 【見どころ】

### ○屋外と屋内、二つの新たな「霧の彫刻」

本展では、屋外と屋内にそれぞれ「霧の彫刻」を展示します。中谷宇吉郎 雪の科学館（石川県加賀市）の建築を手がけるなど、長年の盟友である磯崎新が設計した水戸芸術館広場の噴水を舞台に繰り広げられる霧のパフォーマンス。そしてもう一つは、屋内で映像を投影する実験的な霧のインスタレーション。陰と陽のように対照的な二つの霧の彫刻は、自然とメディア、二つのエコロジーをめぐる本展をシンボリックに表現します。

屋外の霧作品の噴霧時間については、弊館ホームページでご確認ください。17:00 より逢坂卓郎による恒久展示のライトアップが点灯します。

### ○資料から見る霧作品の思想と制作プロセス

エンジニアとアーティストによる共同プロジェクトを支援する E.A.T.\*（芸術と技術の実験）が手掛けた大阪万博ペプシ館（1970）で、中谷は人工霧の研究開発を担当し、最初の「霧の彫刻」を制作しました。以来中谷は、2017年までに、80を越える霧作品を世界各地で発表してきました。本展では、最初の霧発生装置が実現するまでの協働プロセスや会場での設置風景とともに、その後続く 50 年の霧作品の展開を資料展示し、独自の環境作品へと向かった思考と実験のプロセス、技術界に与えた影響、そしてさまざまなジャンルのアーティストとのコラボレーションへと開かれていった模様を紹介します。

\*E.A.T. は、1966 年にアメリカのベル電話研究所に在籍していたエンジニアのビリー・クルーバーや、アーティストのロバート・ラウシェンバーグなどが中心となって結成された非営利団体。アーティストとエンジニア／科学者の協業による新しい創作活動を支援した。

### ○世界 4 都市をつないだ情報彫刻「ユートピア Q&A1981」

1971 年にストックホルム国立近代美術館の「ユートピア&ヴィジョンズ 1871-1981」展のために、E.A.T. が企画した「ユートピア Q&A1981」のアーカイブ展示。世界 4 都市\*を通信機器テレックスでつなぎ、10 年後の未来を市民が互いに語り合い、質問と回答を交わしあうプロジェクトが行われました。これはインターネットが普及するずっと前に、他国の見知らぬ市民同士がやりとりした画期的な活動で、当時のトピックをめぐる熱い議論は現代の視点から見てもハッとさせられます。本展では、中谷が中心となり、最も精力的に動いた E.A.T. 東京の記録を紹介します。

\*世界 4 都市=ストックホルム（スウェーデン）、ニューヨーク（アメリカ）、アーメダバード（インド）、東京（日本）

### ○オルタナティブ・メディアとしてのビデオ

60 年代後半に登場した雑誌「ホール・アース・カタログ」が、消費社会から自立した生き方を示し、DIY カルチャーが広まりを見せるアメリカ。同時代に、同様の精神性を持ち、マスメディアに対抗する個人のためのメディアとして、ビデオによるコミュニケーションを勧める実践の書「ゲリラ・テレビジョン」がビデオ活動家のバイブルとして広がりました。「ゲリラ・テレビジョン」を翻訳した中谷と、日本の同時代の作家もこうした考えに触発されてビデオ活動を展開していきます。人々がテレビに釘付けになったマスメディアの時代にカウンターとして取り組んだビデオ作品を紹介します。

### ○日本最初のビデオ専門ギャラリー「ビデオギャラリー SCAN」

80 年に中谷はビデオギャラリー SCAN を東京の原宿にオープンします。日本最初のビデオギャラリーとして、SCAN は、国内外のビデオ作品のショウイング、若手による新作の公募、女性アーティストの紹介、アンダーグラウンドのミュージック・シーンのビデオレポートなどに加え、海外のビデオフェスティバルで日本作品を積極的に紹介。青山スパイラルで3回の「国際ビデオ・テレビ・フェスティバル」を主催するほか、多岐にわたる活動を担ってきました。十数年にわたり、ビデオを通じた交流の拠点として、のちの映像文化に影響を与えたビデオギャラリー SCAN の活動を辿ります。

## 【関連企画】

### ■ 霧の彫刻×場踊り 大気と身体のおドリ

中谷芙二子の霧の彫刻と田中泯の場踊りは、これまでも 2004 年の山梨県白州、2008 年の横浜トリエンナーレ、2017 年にはロンドンとオスロで共演してきました。大気を鋳型に変化する霧と肉体の機微を遺憾なく発揮する田中泯、二つの舞が水戸芸術館の広場で交差します。

日時：11月10日（土）、11日（日） 各日 14:30 開演

出演：田中泯（ダンサー）

会場：水戸芸術館広場

料金：無料

※開演時間までに広場にお集まりください。

※公演中、田中泯ドキュメンタリー映画「名付けようのない踊り（仮）」（監督：犬童一心）により本イベントの撮影が行われるため、ご来場の皆様は映像に映る可能性がございます。撮影された映像が今後、弊館広報活動や同映画等で公開される可能性がある旨、予めご了承の上ご参加ください。

### ■ 中谷芙二子をめぐるトークセッション

ビデオギャラリー SCAN をめぐって

寺山修司の天井桟敷の旗揚げに参加して以来、舞台や映画、エッセイなど多岐にわたる分野で活躍した萩原朔美。80年代よりCGやアニメーションを制作し、メディアアートのパイオニアとして知られる藤幡正樹。作家、教育者として映像文化に深くかかわってきた2人に、ビデオを通じた交流地であったビデオギャラリー SCAN について、さまざまな文化が混交した80年代から90年代前半に触れながら、回想していただきます。

日時：1月6日（日）14:00～15:30（開場13:30）

出演：萩原朔美（映像作家、演出家、前橋文学館館長）× 藤幡正樹（メディアアーティスト）

会場：水戸芸術館会議場

定員：80名（先着順） ※当日11:00よりエントランスホールにて整理券を配布します

料金：無料（展覧会入場料に含まれます）

岡崎乾二郎による中谷芙二子の「霧の抵抗」

中谷芙二子の仕事を示す力はいかなるものであるのか？そこに示される可能性をどう理解すればいいのか？岡崎乾二郎が執筆してきた3本の中谷芙二子論を基に、中谷に関わる時代背景などもふまえ、中谷芙二子の「霧」が人間の愚かさには抵抗し、挑発し、別の知性を導く。その魅力と可能性を語ります。

日時：1月13日（日）16:00～18:00（開場15:30）

出演：岡崎乾二郎（造形作家・批評家）

会場：水戸芸術館会議場

定員：80名（先着順） ※当日13:00よりエントランスホールにて整理券を配布します

料金：無料（展覧会入場料に含まれます）

### ■ 公益財団法人 石橋財団・国際交流基金 現代美術キュレーター等交流事業

国際交流基金・水戸芸術館共同企画 特別国際シンポジウム『プレイ台リプレイ：「時間」を展示する（仮）』

公益財団法人石橋財団と国際交流基金は、日本現代美術への関心・理解を高め、日本と海外の美術交流の活性化を図るため、現代美術に携わる海外の専門家を招へいします。この交流事業の一環として、シンポジウムを行い、モデレーターには、金沢 21 世紀美術館館長の島敦彦と東京大学大学院総合文化研究科准教授の加治屋健司を迎え、90年代よりマルチメディアパフォーマンスなどで活躍するダムタイプの高谷史郎や、英国テートでタイム・ベースド・メディア作品の保存修復を先導するピップ・ローレンソンなどが参加します。

日時：11月3日（土・祝） 13:00～18:30（開場 12:30）

会場：水戸芸術館 A C M 劇場

定員：200名

料金：無料

※申込方法等、詳細は国際交流基金ホームページ（<http://www.jpff.go.jp/j/>）をご確認ください。

【お問い合わせ】 国際交流基金 文化事業部 事業第2チーム Eメール：tbm2018@jpff.go.jp

主催：国際交流基金、水戸芸術館現代美術センター

特別助成：公益財団法人石橋財団

## ■ 担当キュレーターによるギャラリー・ツアー

展覧会担当キュレーターが展覧会を解説付きでご案内します。

日時：12月2日（日）14:00～15:00

会場：水戸芸術館現代美術ギャラリー

料金：無料（展覧会入場料に含まれます）

※参加ご希望の方はギャラリー入口にお集まりください。

## 【展覧会関連 教育プログラム】

### ■ ウィークエンド・ギャラリートーク

市民ボランティア CAC ギャラリートーカーとともに展覧会を鑑賞します。

日時：11月17日（土）～2019年1月20日（日）毎週土・日曜日 各日 14:30～（約40分）

※ただし12月2日（日）、1月5日（土）、1月6日（日）、1月13日（日）は除く。都合により中止になる場合がございます。

### ■ あーとバス2018

水戸市内の小・中学生を対象に、当館が用意するバスで送迎する展覧会鑑賞ツアーを行います。

実施日：11月27日（火）、28日（水）、12月5日（水）、6日（木）、7日（金）、11日（火）

※当日はギャラリーが児童・生徒たちで混雑する場合がございます。予めご了承ください。



### ■ むいむいワークショップ 子どもの成長を記憶する作品づくり

お子さんとの今を記憶するワークショップです。布に植物を縫いつけ、お子さんの身長と同じ長さの糸で運針をします。おじいさん、おばあさん、お父さん、お母さん、どなたでもご参加いただけます。

日時：1月12日（土） 10:30～11:30 / 14:00～15:00

講師：柵瀬茉莉子（縫いのアーティスト）

定員：各回15組（要メール申込・応募者多数の場合は抽選）

対象：0歳～2歳のお子さまとその保護者（お子さま1人につき保護者1名以上の参加をお願いします）

参加費：保護者1名につき1,000円（展覧会入場料を含む）

申込み：e-mail (atmcac@arttowermito.or.jp)

受付期間：12月5日（水）～10日（月）

協力：GALERIE PARIS、NPO法人子育て応援・ペンギンくらぶ、  
水戸子育てネットワークみとこみ、  
常盤短期大学幼児教育保育学科有志



ワークショップイメージ

## 【同時開催】

### ■ クリテリオム95 早川祐太

普段意識されることのない物の性質から生まれる現象や形態に目を向け、彫刻やそれらを用いたインスタレーションを制作する早川祐太を紹介します。

会期：10月27日（土）～1月20日（日）

会場：水戸芸術館現代美術ギャラリー第9室

主催：公益財団法人水戸市芸術振興財団

制作協力：株式会社ティ・ディ・シー

企画：後藤桜子（水戸芸術館現代美術センター アシスタント・キュレーター）

※クリテリオムは、ラテン語で「基準」を意味し、若手作家の新作を中心に紹介する企画展です。

※料金は展覧会入場料に含まれます。



《i am you》2010年

【図 版】 展覧会広報用にデータを貸し出しますので、ご希望の方は鳥居までお問合せください。

1



2



3



4



5



6



1. 《ロンドン・フォグ》 霧パフォーマンス, #03779, 2017 (参考図版)  
BMW Tate Live Exhibition: Ten Days Six Nights (テート・モダン/ロンドン) 展示風景より  
コラボレーション: 田中泯 (ダンス)、高谷史郎 (照明)、坂本龍一 (音楽) 撮影: 越田乃梨子
2. 《ユートピアQ & A 1981》1971 (企画: E.A.T.) 東京ターミナル会場風景より  
E.A.T.東京メンバー (左から): 小林はくどう、中谷英二子、森岡侑士 撮影: 深沢正次
3. 《水俣病を告発する会—テント村ビデオ日記》1971-1972 ビデオより抜粋
4. 《老人の知恵—文化のDNA》1973 「コンピュータ・アート'73」展 (銀座ソニービル) 展示風景より  
コラボレーション: 小林はくどう、森岡侑士 (E.A.T.東京)
5. 《ペプシン館》霧の彫刻, #47773, 1970 (参考図版) 日本万国博覧会 (EXPO '70) 会場風景より 撮影: 中谷英二子
6. 《オパール・ループ/雲》フォグスクリーン・インスタレーション, #74490, 2002 (参考図版)  
「E.A.T.—芸術と技術の実験」(NTTインターコミュニケーション・センター[ICC]) 展示風景より  
コラボレーション: トリシャ・ブラウン (コレオグラフィ) 撮影: 西川浩史

※作家名の記載がない作品は、中谷英二子作品。

## 【お問合せ】

水戸芸術館現代美術センター

〒310-0063 茨城県水戸市五軒町1-6-8 Tel.029-227-8120/Fax.029-227-8130 <https://www.arttowermito.or.jp/>

展覧会について：山峰潤也

教育プログラムについて：森山純子、佐藤麻衣子(教育プログラムコーディネーター)

広報・写真貸出について：鳥居加織(広報) e-mail:cacpr@arttowermito.or.jp

\*詳細は公式ツイッター [http://twitter.com/MITOGEL\\_Gallery](http://twitter.com/MITOGEL_Gallery) でも配信いたします。

## 【記事掲載についてのお願い】

- 1) 掲載にあたっては、正式展覧会名称と会期の表記をおこなってください。
- 2) 写真を掲載する場合は、写真に添付してあるキャプション・クレジット等を正確に表記してください。
- 3) 誌面掲載する電話番号は、水戸芸術館代表番号029-227-8111でお願いいたします。
- 4) 掲載記事とVTRは、資料として保管いたしますので水戸芸術館現代美術センター鳥居までご送付ください。
- 5) 取材及び収録等の取材は、必ず事前にお問い合わせください。都合により取材に応じることができません。

## 【交通のご案内】

- [JR] 上野駅(品川、東京発もあり)から常磐線特急で約65分～85分、水戸駅下車。駅北口バスターミナル4～7番のりばから「泉町一丁目」下車。降車後バスの進行方向に進み、すぐの交差点で大通り(国道50号)を渡り、脇道をまっすぐにお進みください。徒歩2分。  
◎料金：特急片道3,820円／普通各停片道2,270円(2018年5月現在)  
※ご予約・時刻表など詳しくはこちらをご参照ください。JR東日本旅客鉄道 Tel.029-221-2836 <http://www.jreast.co.jp/>
- [高速バス] 東京駅八重洲南口バスターミナルのりばから高速バス「みと号」(赤塚又は茨大ルート)で約100分、「泉町一丁目」下車、徒歩2分。切符は東京駅八重洲南口バス券売機、水戸駅北口バスチケット売場でお求めください。  
◎料金：東京駅～水戸駅片道切符2,080円。ツインチケット(2枚綴り回数乗車券3,900円)。(2018年5月現在)  
※詳しくはこちらをご参照ください。茨城交通 Tel.029-251-2331 <http://www.ibako.co.jp/>
- [お車] 常磐自動車道水戸ICから国道50号に下りて市街地方面に約20分お進みください。国道349号との交差点「南町3丁目」で左折(左手にみずほ銀行があります。)、 「2つ目の信号」を左折してください。そこから信号1つ過ぎた左側が水戸芸術館地下の市営五軒町駐車場の出入り口です。  
◎駐車場料金：30分まで無料、1時間まで200円、以後30分毎100円／営業時間：7:00～23:00  
※高速料金・ルートなど詳しくはこちらをご参照ください。  
東日本高速道路「ドラぶら」 Tel.0570-024-024 <http://www.driveplaza.com/>

## 【展覧会概要】

展覧会名：霧の抵抗 中谷芙二子

欧文表記：Resistance of Fog Fujiko Nakaya

会 期：2018年10月27日(土)～2019年1月20日(日)

開館時間：9:30～18:00(入場時間は17:30まで)

会 場：水戸芸術館現代美術ギャラリー、広場

休 館 日：月曜日、年末年始(2018年12月27日(木)～2019年1月3日(木))

ただし12月24日、1月14日(月・祝)は開館、12月25日、1月15日(火)休館

入 場 料：一般900円、前売・団体(20名以上)700円

高校生以下・70歳以上・障害者手帳をお持ちの方と付き添いの方1名は無料

※学生証、年齢のわかる身分証明書が必要です

※一年間有効フリーパス →「年間パス」2,000円

学生とシニアのための特別割引デー「First Friday」

→学生証をお持ちの方と65歳～69歳の方は、毎月第一金曜日(11月2日、12月7日、1月4日)100円

主 催：公益財団法人水戸市芸術振興財団、読売新聞社、美術館連絡協議会

助 成：芸術文化振興基金

協 賛：ライオン、大日本印刷、損保ジャパン日本興亜、株式会社あかつき本社、  
WE / produced by POLA、医療法人真成会たきもとクリニック

協 力：アサヒグループホールディングス株式会社、株式会社プロセスアート

企 画：山峰潤也(水戸芸術館現代美術センター学芸員)

### プレス向け内覧会のお知らせ

2018年10月26日(金) 14:00～15:30 受付開始13:30

場 所：水戸芸術館エントランスホール+展覧会会場

出席者：山峰潤也(水戸芸術館現代美術センター学芸員)

\*学芸員によるプレスツアーのあと、中谷芙二子(出品作家)と作品および会場風景のフォトセッションの時間を設けます。

### <カタログについて>

「中谷芙二子 霧の抵抗」展にあわせてカタログを刊行します。中谷芙二子の霧の彫刻やビデオをめぐる多彩な論考に加え、中谷芙二子のロングインタビューや過去の論考を掲載し、これまでの活動に込められた精神性を掘り下げます。これまで語られることのなかった歴史が紐解かれる貴重な一冊です。

予価：3,024円(税込)

予定仕様：A5判・344頁

刊行時期：11月下旬予定

エッセイ：磯崎新、岡崎乾二郎、かわなかのぶひろ、森岡侑士、萩原朔美、藤幡正樹

インタビュー：中谷芙二子、小林はくどう

発行：株式会社フィルムアート社